

キャンパス名	千葉キャンパス				
授業番号	10580002				
授業名	多文化と異文化理解 A	形態	講義	単位	2
担当教員	江藤 双恵				
開講学期	2024年度 前学期	曜日・時限	月曜5限		
授業目的	文化の多様性とはいかなることか、異なる文化を理解するためにはどのような姿勢が必要であるか、教育、労働、ジェンダー、福祉などを通じて考える。また、異なる文化が共存する事例について学び、そこで生じる軋轢や差別を乗り越えてレジリエントな社会を構築することがいかに重要であるかを考える。さらに、この講義での学びを自分自身の今後の生き方を考える機会とする				
授業内容	1、文化の多様性について知る。 2、異文化を理解するために必要なことは何か考え、そのスキルを身につけて実践してみる。 3、多文化共生の事例について学び、そこで生じる課題にはどのようなものがあるかを検討し、それらの課題を解決するための方策を考える。 4、多文化教育の実践と課題について理解する。 5、労働、ジェンダー、福祉における文化的な要素や影響について検討する。 6、脆弱性とレジリエンスについて理解する。				
到達目標	異文化を尊重しながら多様な他者との創造的関係を築けるような地球市民としてのリタラシーを身につけ、多文化共生の現場で生き抜くための力をつける。				
ディプロマポリシーとの関連性	<DP1-(4)> 人間・文化・社会・国際事情あるいは自然等について幅広い知識と理解を有している。				
授業形態	講義方式を中心に授業を進めるが、授業中に課題を課したり、意見を述べてもらう機会を設け、双方向型授業(アクティブラーニング)を心がける。また、出席者の人数に応じてグループワークを導入する。映像、統計、公文書などの資料を活用し、現実理解を深めるだけでなく、それらを解説するスキルを身につけられるよう指導する。 【実務経験のある教員による授業科目】 本科目は、実務経験のある教員による授業科目です。 詳細は以下をご参照ください。 タイでJICA専門家として働く機会を二度得た。「中部タイ酪農開発計画」には「ジェンダー・社会分析」の専門家として、第三国研修事業「女性の役割の強化」には評価チームリーダーとして派遣された。さらに、「開発とジェンダー」をテーマとして、海外青年協力隊二本松研修所などで協力隊員候補生対象の研修や専門家研修の講師も務め、参加型・ワークショップ型研修の運営でも成果をあげている。				
事前・事後学習の所要時間	本科目では、各授業回に2時間の事前学習、2時間の事後学習を必要とする。 合計15回の授業で、事前事後学習60時間となる。				
テキスト	※この科目では指定の教科書はありません。授業内で使用する資料等については、別途授業内でご案内いたします。				
評価方法	毎回の授業中に提出してもらった課題とリフレクションにより総合的に評価する。				
評価基準	評価は100点満点のうち、授業内課題(事前事後学習を含む)とリフレクションを100点の配分とする。100点満点のうち、～59点：不可、60点～69点：C(合格)、70点～79点：B(合格)、80～89点：A(合格)、90～100点：S(合格)とする。				
試験・レポート等のフィードバック	授業内課題を随時評価、また、S-Navi「クラスプロファイル」を通して成績を反映させる。また、課題によってはコメントをつけて返却し、思考を深めるようなアドバイスをを行う。				
注意事項及び履修条件	大学規定の通り、出席回数は全授業の3分の2以上がなければならない。				
S：100～90、A：89～80、B：79～70、C：69～60、D：60未満					
第1回					
事前学習	異文化理解、多文化共生とはどのようなことか考えておく。インターネットなどで関連する情報、すなわち、日本における文化の多様性にまつわる問題、外国にルーツをもつ人々にか関わるニュースに注意を払っておく。また、履修に向けての心構えとして学生心得を読んでおく。				
授業内容	授業の進め方と全授業の見通しの説明、また履修者が臨むべき姿勢に関するガイダンスを行う。				
事後学習	授業中に紹介した参考文献に目を通しておく。				
参考文献					
第2回					
事前学習	参考文献を読む。前回授業のノート内容をまとめておく。				
授業内容	異文化を相対化するにあたって有効な学問、文化人類学、社会学、地域研究などの学説について概観する。				
事後学習	授業で配布された資料を熟読し、地域研究の手法について具体的に理解する。				
参考文献	『地域研究』(JCS Review) Vol.7 No.1 (2005年6月発行) 北川隆吉監修『地域研究の課題と方法 アジアアフリカ社会研究入門』文化書房博文社 (2006年)				
第3回					
事前学習	前回の内容を踏まえて、文化とはどのようなことを指すのか、考えておく。				
授業内容	これまでのものの見方の偏りについて考える。当然視されていることを疑ってみる重要性に気づく。そこから自文化中心主義の陥穽について考えてみる。				

事後学習	授業中に紹介された著作の内容について、現在はどうなっているのかをインターネットなどで調べる。
参考文献	『現代思想 特集ろう文化』
第4回	
事前学習	「ろう文化宣言」（木村/市田）を熟読し、どのようなことが主張されているか考えてみる。
授業内容	「ろう文化宣言」の中で定義されている「ろう文化」とは何か、それは「聴文化」とどう違うのか、また、なぜそのような定義と宣言がなされたのかを理解する。
事後学習	授業中に紹介された文献に目を通しておく。
参考文献	
第5回	
事前学習	多文化共生とはどのようなことか。インターネットなどで調べておく。
授業内容	日本における多文化共生の先駆的事例として川崎市における施策について、その経緯や内容について学ぶ。
事後学習	授業中に示したウェブサイトを開覧し、川崎市の事例についてさらに理解を深める。
参考文献	
第6回	
事前学習	川崎市の施策と類似の施策が自分の居住地でも実施されているかどうか調べてみる。
授業内容	川崎市における多文化共生の事例について、民間団体の活動から学び、NPOなどの役割について知る。
事後学習	自分の居住地で多文化共生について活動しているNPOなどの民間団体の事例を調べてみる。
参考文献	
第7回	
事前学習	学校における多文化共生とはどのようなものか調べてみる。
授業内容	横浜市における多文化教育の事例について学び、その経緯や現状、課題について検討する。
事後学習	授業中に示した事例から、外国にルーツを持つ子どもの教育にとって重要な課題は何か検討する。
参考文献	
第8回	
事前学習	多文化教育とはどのようなことを意味するのか、目的は何か、対象者はだれか、国別の違いなどはあるのか、事前に指定された論文や自分の収集した資料を下に考えておく。
授業内容	日本の各地域における多文化教育に力を入れている学校の事例を通じて、そのような教育を必要とする当事者の考え方や課題について理解する。
事後学習	授業中に配布された資料をよく読み、わからないところはインターネットなどで調べておく。
参考文献	
第9回	
事前学習	自分の出身地や居住地で実施されている多文化共生施策、多文化教育施策に関する文書に目を通しておく。
授業内容	日本における多文化教育の課題と多文化共生の課題を連携させる。多文化教育において重要視されていたことを多文化共生という視点から再構成する。多文化共生施策の実施における地方自治体、NPO、専門家の役割について理解する。
事後学習	授業中に示した資料をよく読み、視聴した映像について理解を深める。できれば授業後にもう一度映像を見て欲しい。
参考文献	
第10回	
事前学習	日本における外国人労働者の受け入れに関する政策の経緯について調べておく。
授業内容	日本における外国人労働者の受け入れに関する政策の経緯について理解し、外国人労働者やその家族が直面する課題について考える。
事後学習	自分の居住地における外国人労働者の状況について、統計を調べて実態を把握してみる。
参考文献	
第11回	
事前学習	前回の復習に引き続き、自分の居住地における外国人労働者の実態について把握し、その人たちがどのような課題に直面しているかを考えてみる。
授業内容	日本における外国人労働者の受け入れについて、現在議論されていることはどのようなことか。政府の方針、受け入れ推進派の考え方、受け入れ慎重派の考え方を比較検討する。さらに、外国人労働者をめぐる日本社会における軋轢や差別の事例などを具体的に学び、解決方法について考える。
事後学習	自分の居住地において、外国人労働者の支援をしている団体があるかどうか、あればどのような活動をしているか、調べてみる。
参考文献	
第12回	
事前学習	前回の授業とのつながりから、弱者支援と文化について考えてみる。異なる文化の間をつなぐ福祉的な施策にはどのようなものがあるか考えてみる。
授業内容	タイにおけるコミュニティ福祉の事例から福祉と文化の関わりについて検討する。福祉的施策に文化的背景や、宗教を利用した福祉実践などについて事例から学ぶ。
事後学習	タイの女性と日本の女性の経済的、社会的役割はどう違うか考えておく。
参考文献	
第13回	

事前学習	日本におけるジェンダー文化（ジェンダーによって規定された文化、または文化が規定するジェンダー役割など）にはどのようなものがあるか考えておく。
授業内容	ジェンダーがいかに文化的、社会的な概念であるかを実践的に理解する。グループワークをして日本的なジェンダー文化について事例をあげ、その内容について検討しあう。
事後学習	授業中に発見したジェンダーの文化について、どのような課題があるかを検討してみる。
参考文献	

第14回

事前学習	日本以外の地域における多様なジェンダーのあり方について情報収集しておく。例えば、欧米、東南アジア、南アジア、中東ではどのようなことが女性の課題とされているかを調べてみる。
授業内容	欧米やアジアの国々におけるジェンダー文化のあり方について、いくつかの事例から比較検討する。
事後学習	授業中に示した各地域のジェンダー文化の事例を通して、逆に文化をどのように定義できるか考えてみる。
参考文献	

第15回

事前学習	レジャーリスという概念について、配布した資料をもとに下調べをしておく。
授業内容	14回までの授業で学んできたように、文化という概念は脆弱な存在について理解し支援するために役立つものである。最後に、脆弱性・レジャーリスという概念を学び、社会のレジャーリスを高めるためには異文化理解の視点が不可欠であることを理解する。
事後学習	自分の将来の仕事にレジャーリスという概念がどのようにかかわってくるか、考え、整理してみる。
参考文献	

※この他に試験が実施される場合があります。担当教員の指示に従ってください。

ディプロマポリシー	<p><DP-1> 【社会の構成員としての基本的知識・技能・態度】 社会生活で必要となる汎用的技能及び社会の一員として求められる態度や志向性を身に付けているとともに、人類の文化、社会と自然に関する知識について理解している。</p> <p><DP1-(1)> 日本語及び外国語によるコミュニケーション能力を身に付けている。</p> <p><DP1-(2)> 情報通信機器の活用に関する知識・技能を持ち、利用における法令順守の態度を身に付けている。</p> <p><DP1-(3)> 問題を発見し、課題を解決する能力を持ち、立案・実行過程で主体性を持って協働できる態度を身に付けている。</p> <p><DP1-(4)> 人間・文化・社会・国際事情あるいは自然等について幅広い知識と理解を有している。</p>
-----------	---